

## 「切り絵で見る“星物語”展」報告

小栗順子（天文情報センター）



たくさんの方々にご来場いただきました。左は告知のリーフレット。



中野サンプラザは、JR中野駅の目の前にある中野区のランドマーク的な存在で、イベントホールをはじめ、さまざまな設備が整う文化複合施設です。2013年6月に創立40周年を迎える中野サンプラザ記念イベントの一つとして「切り絵で見る“星物語”展」を開催いたしました。主催者の方から「新たな芸術鑑賞のスタイルの提案を」というお誘いを受けての企画ですので、天文・宇宙を表現する切り絵の世界観をお伝えしながら、多くの方々に更なる天文への興味を喚起し、天文学の普及に役立てたらと思ひ、制作や準備に意欲的に取り組みました。



「八月十五夜 かぐや姫の昇天」と作者。平安時代初期に作られたといわれる日本最古の物語『竹取物語』よりクライマックスシーン。昇天するかぐや姫と惜別の悲しさの情、翁媪を描いた。この作品は展示会の代表作として朝日新聞夕刊で紹介された。

これまでも台内をはじめ、三鷹市星と絵本の家や関連団体のイベントなどで数々の作品を発表する機会を頂いていましたが、外部機関での個展は初めての経験。展示作品は、個展のテーマ性から2010年国立天文台公式カレンダー「星の和名を巡る」が中心になりましたが、中野サンプラザ版として新たなメッセージをお届けしたいという思いと、会期が七夕を挟んでいることもあり、記念の作品「竹取物語」など何点かを新たに制作し、総計約20点を展出了しました。

朝日新聞など多くのメディアで個展の告知記事が掲載されたこともあり、会場には関東近郊から、はるばる新聞の切り抜きを手に訪ねてこられた方や地域のみなさま、国立天文台関係者のほか、公共性が高い会場ならではの、とても幅広い世代の方々にお越しいただきました。また、国外の方々にも鑑賞していただき、日本の切り絵と星文化の発信にも一役買ったように思います。私自身、会期中何度か在廊しており、鑑賞されている来場者のみなさまの様子をうかがえるのは新



天体現象や神話に因んで新たに制作した作品も多数展示。左は「天の岩戸神話」より4部作。昔既日食を題材とし、記紀神話から太陽神・天照大御神の復活を描いた。

鮮でした。初日にかけてくださった林正彦台長、そして渡部潤一副台長はじめ関係者の方々のご厚情を賜りましたおかげをもちまして盛況のうちに展示を行えたことを、心より御礼申し上げます。なお、この個展の開催にあたりましては、国立天文台の後援を頂きました。

これからも創作を続け、新たな表現の可能性に挑みながら取り組んでいきたいと思いを新たにしております。



2010年の国立天文台カレンダーで制作した「星の和名を巡る」。野尻抱影『日本の星』の世界観を“切り絵”で描いた。今回の展示のメインテーマ。上に掲載したのは、その中の7点。